

自立と共生！

たくましい日本！

No. 198号

民主党 中川正春の **永田町かわら版**

2003年8月18日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail g03063@shugiin.go.jp**○電気、水と医療機器がニーズ**

「水がおかしい。水道水を飲んで家族中が病気になった。この子が一番深刻だ。あなた達は、子供を日本に連れて行ってくれるのじゃないのか。日本に行けばこの子は治る。日本に連れて行って下さい。」私の手を握りながら、子供の母親が必死で訴えてきます。冷房が十分に効かない中で、むっとする臭いが立ち込める病室。子供も、母親も、私達をまっすぐに見つめてきます。

過去に日本の援助で建てた病院も、フセイン政権に対する、この十年の間の経済制裁が影響して維持費が滞り、建物が荒れたり医療機器の故障などで、全体の能力の半分くらいしか稼動していないと、医院長が説明してくれました。「ドクターは、イラクに沢山いるからだいじょうぶ。医療機器と医薬品、電気や水道などライフラインの復旧に力を貸して欲しい。」病院を去るときには、60項目の支援要請のリストが渡されました。

UNDP(国連開発計画)の仕事も見て欲しいということになりました。緊急雇用創出プログラム。国連のUNDPが取り組むものとタイアップして、町の中に日本で言う失対事業を起こしています。フセイン政権の崩壊で、役人に給与が払われなくなった訳ですから、ごみの収集や町のあちこちで見られる略奪で焼きただれた建物の瓦礫を片付ける人がいません。一日3ドルでとりあえずの仕事にありついた人たちが、町の空き地にごみを運んできます。そのごみの中から、金になるものをあさる人。子供達も元気に集ってきます。

○イラク国家再建への道のりを訪ねて... 厳しい現実と向き合う

翌日からは、この国の復興をしながら国家機構を作り上げようとしているリーダー達に精力的に会いました。おもな活動グループは四つあります。アメリカ統

宗教界の代表など、アメリカのCPA代表のブレマーが選んだ25人の評議員がいます。その中で今回は4人の指導者と会いました。長年外交官として腕を鳴らし、イギリスに亡命していたパチャーチー氏。80歳ですが次期大統領と目されています。クルド族から、クルド愛国同盟を結成、海外生活が長く英語にも堪能なタラバーニ氏。これと対照的にクルド民主党のたたき上げバルザーニ氏。そして、女性の地位向上のために抜擢された元官僚のハーシーミー女史。

「私達は毎日会議で全く忙しい。」これが開口一番でてきた言葉です。「アメリカ軍の侵攻によってフセイン政権とバース党の暗黒の統治はおわった。日本はもちろん、世界各国の支援に感謝している。アメリカの占領統治も歓迎している。しかし、現状では治安の維持は十分に保たれているとは言いがたく、電気や水などのインフラの回復が緊急の課題だ。」と言います。最後に、私から、「イラク人による政府が立ち上がって、正常な状況になるまでに何年くらいかかる見通しか。その際、日本の経験では、アメリカ軍は引き揚げることなく、そのまま駐留し続けて現在にいたっているが、イラクでも統治評議会は、アメリカ軍の駐留を望んでいるのか。」とずばりきいてみました。「計画どおりに、憲法を制定し、選挙による国会が開かれるのに2年ほどはかかると見ている。現在はアメリカ軍なしでは、やっていけない。しかし、国軍が出来て国が落ち着いた時点では、アメリカ軍に引き続きの駐留を求めるかどうかは、その時の国民が決める事だ。」

ここで男ばかりが話していることに満足できなかった人がいました。会見が終わった後、阿部知子議員が、もと女性官僚のハーシーミー女史を捕まえたようです。「彼女は、アメリカ軍には、できる限り早く引き揚げて欲しいと言っていた。武力で制圧した事は、間違っていると思うとも言っていたか

治の司令塔CPA、イラク人指導者による統治評議会、アメリカ軍を中心とする軍事司令部とUNDPなどの国連組織です。

まず、朝一番で尋ねたのが、つい最近立ち上げた暫定評議会の本部。フセイン時代に反体制の立場をとって海外に亡命していた外交官や政治指導者、迫害されたクルド族諸派の代表やシーア派といった

ら、国民の本音には、かなり複雑なものがあると思うよ、中川さん。」このことを、阿部さんは「女同士の確認事項」だと力を込めて言うのです。

権力が空白になった国家に、新たに政府を外から植え付けて、民主主義を根づかせる。実際、これは2年などという年月で達成できる事ではないでしょう。 (次号につづく)